

令和4年9月台風14号大淀川上流内水対策検討会  
を踏まえた今後の対応方針

参 考 資 料

今後の対応事例

令和5年3月

令和4年9月台風14号大淀川上流内水対策検討会

[ 宮崎河川国道事務所、宮崎県、都城市 ]


# 1. ハード対策

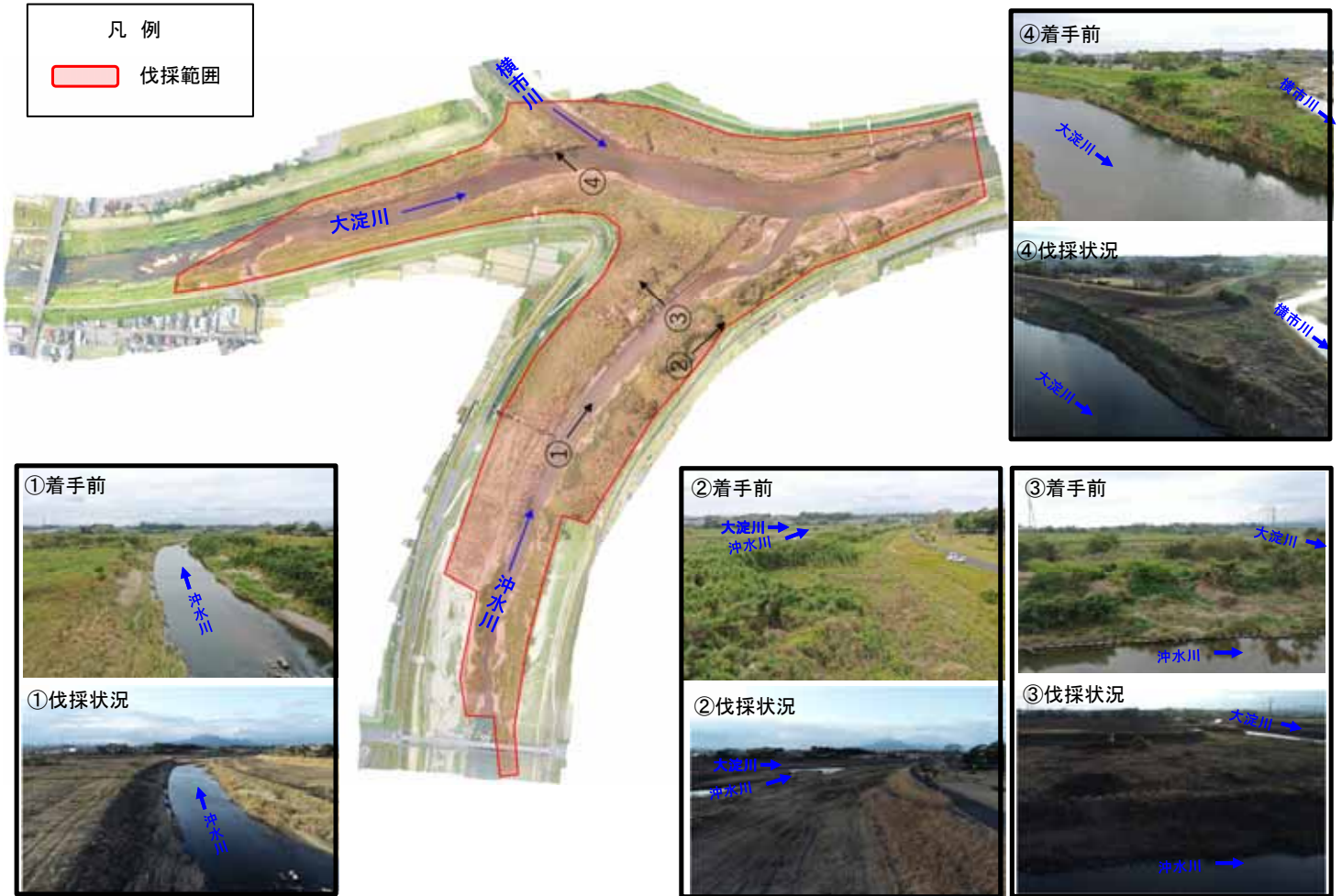
## ① 内水被害の軽減対策（河道掘削）

- 令和4年台風14号に伴う豪雨により、浸水被害が発生したため緊急的に予算を確保。
- 確保した推進費を活用して、大淀川等の河道掘削・樹木伐採を実施し河川の水位低下を図る。
- 河道掘削に先立ち、令和4年12月より樹木伐採を実施中。



# ① 内水被害の軽減対策（河道掘削に先行した樹木伐採）

凡例  
 伐採範囲



# ① 内水被害の軽減対策（大岩田遊水地整備）

- 大淀川と萩原川の合流する場所に「遊水地」を整備中であり、現在、用地取得を行っている。
- 洪水時に遊水地で洪水をため込み、下流の水位低下を図る。



## ① 内水被害の軽減対策（雨水対策施設等による床上浸水解消）

■ 雨水対策施設等（雨水ポンプ場、バイパス管、調整池等）の整備を行うことで、令和4年9月台風14号実績浸水降雨に対し床上浸水解消を図る。

○ 雨水管理総合計画に基づく場合の事例

### 雨水ポンプ場の整備

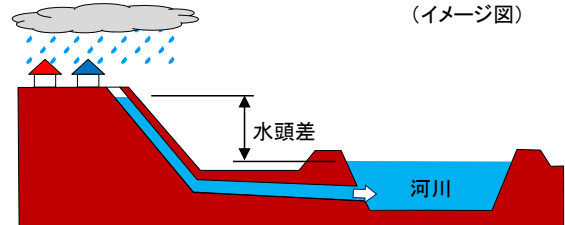
（参考：都島ポンプ場）



### 雨水幹線（バイパス管）の整備

高低差による水頭差を利用し、別ルートでの雨水幹線（バイパス管）により強制排水

（イメージ図）



### 調整池等の整備

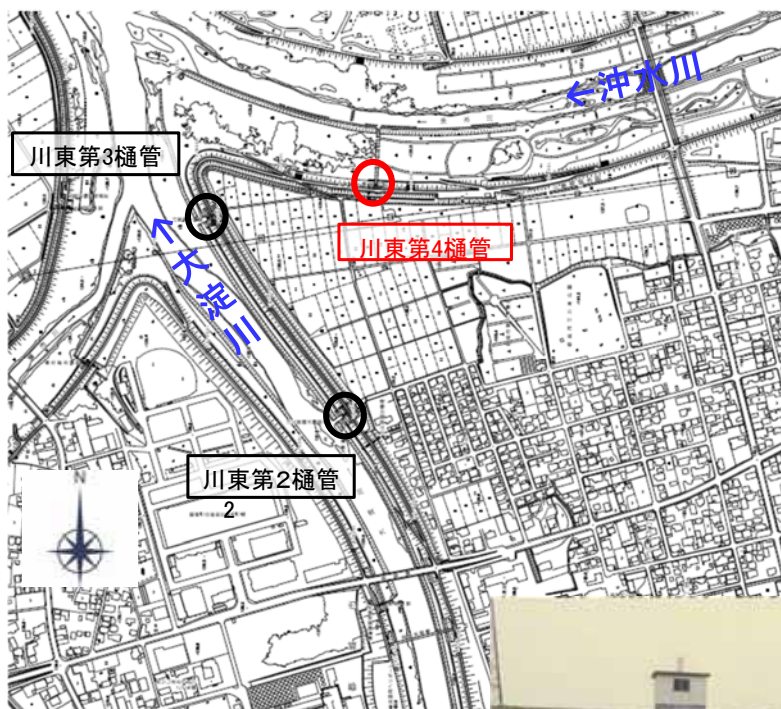


（参考：志比田調整池）

## ② 操作環境改善対策（樋管ゲートの無動力化の推進及び遠隔化の検討）

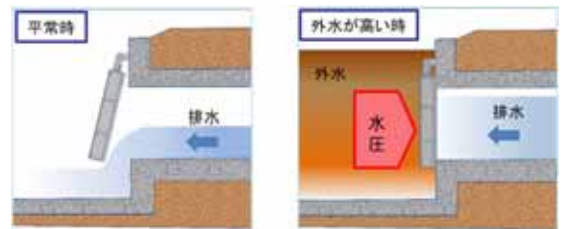
■ 暴風等の影響によりで操作人が安全のため退避した時間帯があった。

■ このため操作人の安全性を確保するため川東第4樋管のゲートをフラップゲートに変更する。



#### 【フラップゲート】

- 招き扉の構造のゲート。外水と内水の水位差により無動力でゲートの開閉を行う仕組みで人による操作が不要
- 引き上げ式ゲートと比べ、不完全閉塞を起こす可能性が高くなるが、操作員の安全性確保のため、ゲートの面積が約5m<sup>2</sup>以下の小規模な樋管や近くに人家が少ない地域など治水上影響の小さい樋管からフラップゲートへの変更を進めている。



	樋体面積
川東第4樋管	4.5m <sup>2</sup> × 1門
川東第3樋管	7.5m <sup>2</sup> × 2門
川東第2樋管	6.25m <sup>2</sup> × 2門



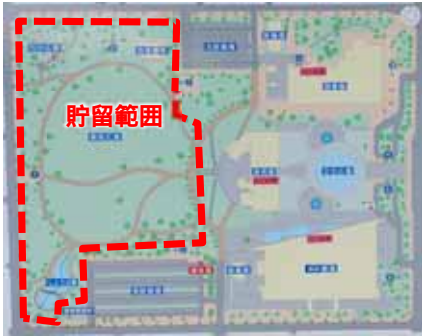
川東第4樋管

参-3

### ③ 流出抑制対策（流出抑制対策の検討（雨水浸透施設等））

■流域治水の考え方を取り入れ、雨水を浸透又は貯留させる機能の付加や、田んぼダム等に代表される流出抑制対策について検討を行う。

#### 公園における流出抑制対策事例 （小松川流域：宮崎県総合文化公園）



断面図



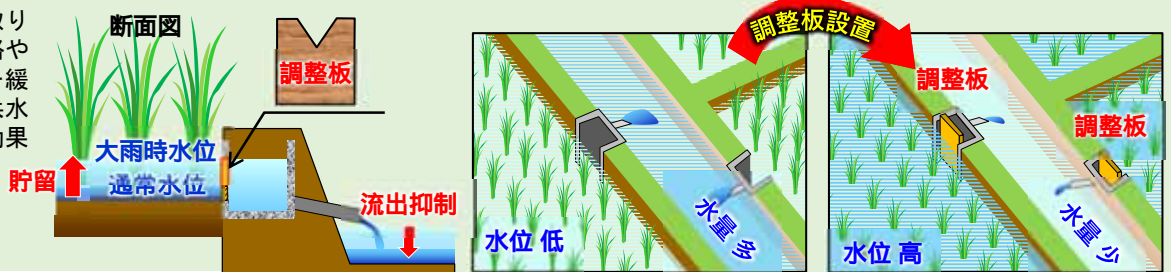
芝生広場は周辺より低く整地されている



#### 田んぼダムについて

○排水口に小さな断面の切り欠きをあけた調整板を設置し、大雨時に水の流出を抑制することで、田んぼがダムの役割を果たす。

○多くの田んぼで取り組むことで、水路や河川の水位上昇を緩和し、下流域の洪水被害を軽減する効果がある。



## 2. ソフト対策

### ① 施設操作（河川管理施設の操作人への説明会等の実施及び改善）

■毎年、出水期前に操作人と合同で実施している樋管の合同点検、操作人に対する樋管の操作説明は、点検並びに操作のポイントを説明すると共に、樋管の目的や効果についても併せて説明する。また、情報伝達の訓練において、実践形式の導入を検討する等改善を図る。



令和元年5月 水門等操作説明会



令和4年5月 合同点検、操作訓練

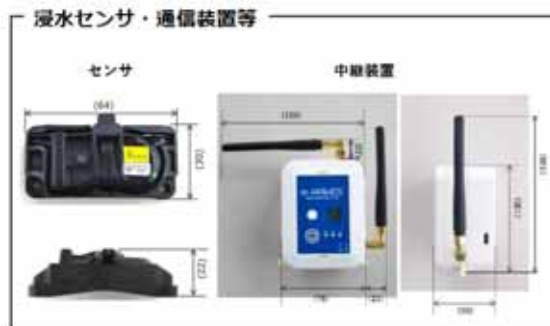
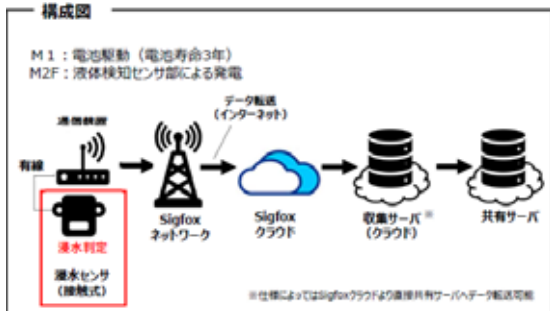
### ③ 情報発信・共有 (浸水センサの設置によるリアルタイム浸水状況の把握する仕組みの検討)

■災害対応の迅速化、住民の早期避難のための情報発信として、内水氾濫時に面的に浸水の状況を把握するため、浸水センサを用いてリアルタイムに浸水状況を把握する仕組みを検討する。

活用イメージ

【災害時】  
早期の人員配置  
(道路冠水による通行止め、避難所の開設等)

【復旧時】  
り災証明(自治体等)の簡素化・迅速化  
災害復旧の早期対応



### ③ 情報発信・共有 (安定した水位、雨量情報の提供及び適切な維持管理)

■一般公開している水位、雨量等情報について、安定した情報を提供できるよう、観測局等の適切な維持管理を行う。

宮崎県の雨量・河川水位観測情報

雨量観測情報: 画面イメージをクリックすると目的の画面を  
水位観測情報: 画面イメージをクリックすると目的の画面を

水位状況図 (大淀川流域) 2023年01月27日16時40分 現  
マークをクリックするとグラフが表示されます。  
この情報は遠隔観測です

水位状況図

水位グラフ

沖水橋簡易型河川監視カメラ

QRコード

## ④ 地域防災力を向上させるまちづくり（防災士、地域住民、学生の人材育成）

■防災士を対象とした防災に関する学習、出前講座を行うことで、防災士の人材育成を行うとともに、地域住民や学校に対する学習を展開し地域住民や学生の防災意識向上に資する人材育成を行う。

### ○令和4年度の参考事例

・令和4年5月 NPO法人宮崎県防災士ネットワークへの出前講座(マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」の作成について)



■宮崎県立佐土原高校では2017年から防災アプリの開発に取り組んでおり、国土交通省と内閣府が協力して災害時に役立つ防災アプリの公募を行い、佐土原高校が2年連続で防災アプリ大賞を受賞。なお、佐土原高校のアプリ開発については、宮崎地方気象台が助言等を行っている。



アプリアイコン



スプラッシュ画面

## ④ 地域防災力を向上させるまちづくり（防災リーダー育成の推進）

■各地区の防災リーダーとなる方を対象に宮崎県防災士ネットワーク、河川協力団体等と共同で、出前講座を実施することで、各地区での防災リーダーによる防災教育(マイタイムライン等)の普及・展開を図る。

### ○令和4年度の参考事例

・令和4年6月 都城市自治公民館連絡協議会への出前講座(国交省×防災士×NHK)





### 3. 維持管理

#### ① 河川・雨水幹線内巡視・点検の徹底、堆積土砂撤去・樹木伐採

■ 定期的な施設の巡視や点検等を行い、必要に応じ施設の修繕や河道内の土砂撤去・樹木の伐採等を実施する。



## 4. 災害時の支援

### ① 災害時の支援（災害時情報配信システム）

■災害時における情報伝達について、行政から住民に分かりやすい情報が行き届くよう、伝達手段や情報の伝え方について引き続き検討を図る。

